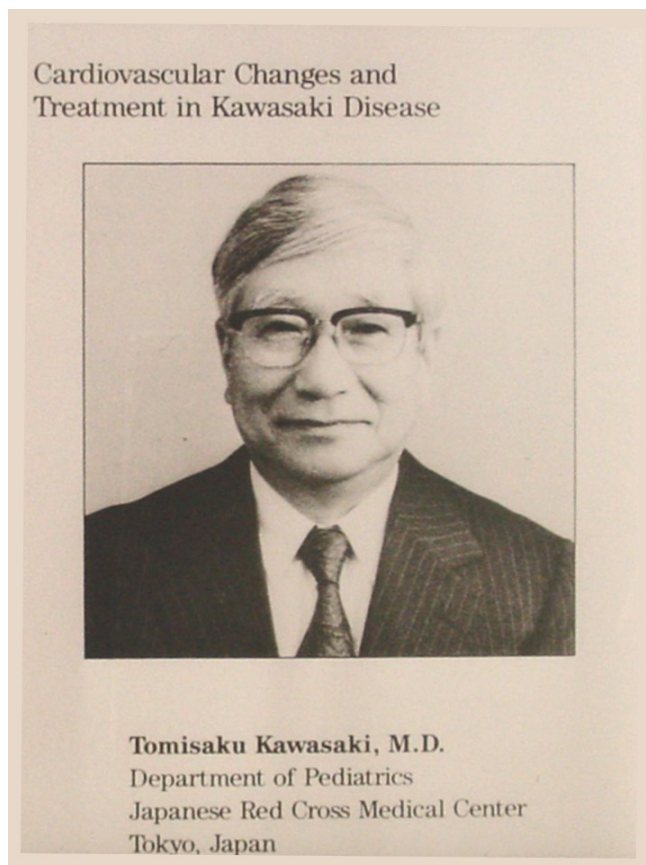


川崎富作先生を偲んで



日本川崎病研究センター名誉理事長・日本川崎病学会顧問の川崎富作先生が2020年6月5日に95歳でご逝去されました。川崎富作先生はご存じのように川崎病の発見者であり、その臨床に基づく深い洞察力によって新しい疾患概念を確立されました。Kawasaki Diseaseは全世界で認められる乳幼児に好発する全身の中小血管炎です。川崎先生が初めて疾患概念を発表された1967年当時は、一過性の急性疾患と思われていましたが、その後の全国調査により本疾患患者で突然死をきたす症例があること、さらにそれらの患者が冠動脈瘤を合併し冠動脈の血栓閉塞によって死亡していることが明らかとなり、循環器領域で重要な疾患となりました。さらに無症状で回復した患者であっても冠動脈瘤を合併している症例があること、そしてその冠動脈病変が経過とともに狭窄病変へ進行したり、あるいは正常の血管に自然退縮したりすることがあるなど、我が国の臨床研究をもとに明らかとなりました。ある意味、川崎病によって日本の小児循環器研究は世界の中で新たなステータスを確立できたとも言えます。免疫グロブリン大量療法の導入により、冠動脈後遺症の発生頻度は大きく減少しましたが、現在でも年間15000人の発生を認め、さらに約2%には冠動脈後遺症を残しています。

成人期に達した川崎病の長期予後は日本成人先天性心疾患学会にとって避けては通れない重要な問題です。川崎先生からも、本学会ですっかり対応していただきたいと、生前よりお話をいただいております。今後、関連する学会と共同して成人期の問題点、

フォローアップ体制を確立していかなければなりません。

川崎先生は温厚なお人柄で世界中の川崎病研究者と様々な交流を行われてきました。写真は1989年 American Heart Association での T. Duckett Jones Memorial Lecture の時に配布されたパンフレットの表紙です。川崎先生の講演の後、会場全員から割れるような standing ovation を受けられる川崎先生のお姿を拝見した時に、日本人であることを誇らしく思った記憶は今も鮮明に残っています。川崎先生は世界各地で招請講演を行われてきましたが、講演後はいつも川崎先生のサインを求める人、一緒に記念写真を撮る人で会場には長い列ができていました。川崎先生は、川崎病に関する学会では必ず一番前の席で、最初から最後まですべての演題を拝聴されていました。これは晩年、車いすで学会に参加されるようになっても変わりませんでした。

日本成人先天性心疾患学会では、今後も成人期に達した川崎病に対ししっかりとしたエビデンスを積み重ね、川崎先生にご報告できるよう、取り組んでいきたいと思っております。

川崎富作先生のご冥福をお祈り申し上げます。

2020年6月

日本成人先天性心疾患学会 理事長 赤木禎治